

信頼される開かれた学校づくりをめざして

県立指宿養護学校 校長 酒匂 康行

1 新たな取り組み

今年度より、新たに①「自己評価については、学校運営年間計画による評価を実施し、その評価の結果を基に、次年度への課題を明確にする」、②「校務分掌業務の評価については、各係等の年間計画に基づいた進捗状況を含めた自己評価を行う」という取組を始めました。

①については、学校課題、中期的目標群から抽出した具体的目標に基づいた進行計画の95%が計画どおりの取組となった。

課題としては、すべての中期的目標からの反映とはならなかったこと。中期的目標達成に向けて取り組まなければならない課題の設定が不可避。

②については、各校務分掌業務の計画全ての取組ができたこと。各係が責任を持って担当業務を遂行できたこと。反省の時間短縮にも繋がり効率的な評価に繋がったこと。

課題としては、各係が設定した重点取組目標の全てにおいて、自己評価の評価基準・指標が見えづらいこと。故に、より踏み込んだ目標設定が必要である。

※改善の視点として、

①管理職の総合的な状況把握と推進力の発揮。教務、学部主事、各主任による中期的目標達成状況と学校課題の把握及び情報収集による分析が必要であること。その後、より具体的な目標・評価基準設定と年間進行計画の作成を行う。全体へは現状の理解を促し、課題の抽出協力により、納得した目標設定となるよう留意すること。

②の各校務分掌及び教科等の重点取組目標は、定められた各分掌業務内容に対しては抽象的な文言でも可とするが、各校務分掌や教科において本校における役割や意義、価値等を踏まえた重点取組目標の設定を図ること…ここでの目標は、①の中に挿入されることも想定される。

2 中期的目標達成状況

(1) 育ちに寄り添い、主体性と育む学びのスタイルの確立

ア 個別の教育支援計画及び指導計画の継続的改善を実施中。支援・配慮欄や重点目標の設定、効果的・効率的なミーティングの在り方等、授業づくりへ活用されている。

イ 児童生徒の教育的ニーズの把握に向け、生活と発達の領域を活用しつつ、今後はICFを活用したアセスメント能力の向上を図り、児童生徒の教育的ニーズ把握の精度を高める。

ウ 聞く・読む・書く・話す力、表現力・思考力の向上に向けて、各学部・教科等での取組が進んでいるとの評価である。より具体的・積極的に取り組むよう年間進行計画に取り上げ、各部の実践と結果を明確にする。

エ 家庭の教育力向上に向けた、具体的な取り組みの評価ができなかった。次年度は、「我が家の〇〇」などの取り組みを年度当初に設定し、評価、まとめを実施する。

(2) 健康づくりと安心・安全・清潔な学校づくり

ア うがい、手洗い、歯磨きの定着に向け、日常の担任等からの継続的な指導に加え、長期休業中のチェック表の活用、歯科衛生士や歯科医を学校に招いての指導が実施された。

児童生徒の感染症等罹患についてはインフルエンザは3名(前年比-1)、アデノウイルス1(-3)、ノロウイルス0(-3)となった。歯科医よりあいうべ体操を紹介され、口呼吸から鼻呼吸の習慣化による感染諸予防や構音訓練等、健康・学習面等での様々な効果が期待されることから、現在も各学級で取り組んでおり、次年度は全学部での継続的な取組に繋げたい。

イ 体づくり・体力向上へ向けた、日常的な取組が進んでいる。今後も継続し、学部・学級での特色ある取組として設定したい。

ウ 校内外における大きな事故は発生していないが、各種訓練における計画的な事前・事後

指導の徹底、日常的な危険防止、危険予知、危険回避能力の育成を図る。また、危機管理マニュアルの改訂、ヒヤリハットの共有化、緊急事対応シミュレーションの全教職員の参加等、継続を図る。

エ UDL（ユニバーサルデザインに基づく授業）は本校においては当然のことであるが、教育環境の整備、学校のユニバーサルデザイン化については、課題が残る。本校の豊かな自然の積極的活用や教室における整理・整頓・安全・清潔な環境、共通的にデザインされた案内板やシンボライズされたマーク等の整備等は急務である。

（３）人権・人格を尊重し、心に届く指導で思いやりと明るく素直な児童生徒の育成

ア 教職員の体罰や暴言・威嚇等の事例はなく、人権尊重への研修は外部からの講師招聘も含め計画的に実施された。教職員として、互いの理論や教育理念を受け止め合い、互いの立場を思いやった言動に留意し、成長しあえる同僚として、今後も相互研鑽が必要である。

児童生徒の人権意識の醸成に向けた標語作成、「友達の良いところを見つけよう」などに取り組んだ。陰湿ないじめの状況はなく、各担任・担当で適切に対応がなされた。

イ 携帯電話等情報モラルの問題は発生していない。高等部において計画的な指導がなされた。小・中学部においては保護者への指導も含め、計画的な実施が望まれる。

ウ 児童生徒会では、自主的なあいさつ運動が実施され、成果を上げた。次年度も継続実施を望む。

エ 学習発表会や芸術鑑賞会等を通して、芸術文化への興味・関心が高められた。いずれも事前・事後指導の充実を図り、身体表現や詩歌、絵画等のより充実した取り組みに繋げる。

（４）キャリア教育の推進と希望進路の実現

ア 教師・保護者への研修や相談の場は充実し成果が現れつつある。今後も参加率の向上を図りつつ継続的な研修を望む。

イ 夢や希望を語り、発表する場の工夫とキャリア教育の視点を明確にした学習指導の在り方を共通理解し、共通実践へ繋ぐこと。

（５）特別支援学校のセンター的機能の推進

ア 巡回相談実施件数（幼・保６（昨年度比＋２）、小５１（＋１４）、中１９（＋７）、高３（＋１））、管理職研修会２（－１）、小学校等研修会１１（＋８）、本校開催の夏季セミナー ７６名参加（＋３５）と、相談件数や参加者等が増加している。

イ 巡回相談の依頼内容から、「今後の指導・支援について」「困り感の要因や適切な支援方法」等々、現在進行形の指導内容や方法等への相談よりも、全般的支援の依頼が回数を重ねても見られるなど、本校への依存度がまだまだ高い。各校内の特別支援教育体制の構築へ向け、県市町村教育委員会や管理職等への取り組みも不可避。

（６）信頼される学校、安心できる職場づくりの推進

ア 学校職員による自己評価や保護者アンケートを改善・工夫が推進できている。より、透明感と具体性ある評価を行い、学校関係者評価委員の方々へ分かりやすい評価を目指す。

イ 各種会議やミーティングの工夫・改善は不十分である。会議やミーティング等の趣旨や検討課題等を明確にして、参加者の自覚を促し効率的な運営に務める。また、各種会議や研修等は年間計画に基づき、各月及び週の日程調整を常に行い、全職員に確実に知らせ、無理・無駄のない時間配分と計画的な運営に努める。

ウ 教職員による大きな事件・事故はなかったが、常に教育公務員としての自覚を持ち服務規律の厳正確保に向け継続的な職員指導（外部からの講師招聘等も）を実施していく。

エ 職員体育は、外部より講師招聘し全体での活動や室内でできるラジオ体操など取り組みの工夫・改善が図られたが、参加者が限られている。湯沸かし室（旧日直室）にソファを用意し、教職員の休憩等に利用できるよう設定した。各種休暇等の積極的な利用促進と自己の健康管理への意識向上を図る取り組みも継続する。

平成26年度 指 宿 養 護 学 校 学 校 運 営 年 間 計 画

進行計画 1

	平成26年度の具体的目標	評価基準	担当	年 間 進 行 計 画											評価の結果	次年度への課題		
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			3月	
重点 取組 目標	○学校運営の推進																	
	・学校運営計画の作成とその推進計画 (学校評価の計画作成と推進)	評価実施(7,11月) 集約と改善(8,3月)	教頭・教務 企画委員	学校運営計画の周知 (職員・保護者・ 外部評価委員)	進捗状況 確認	評価(職員・保護 者・児童生徒)	評価まとめと改善策検討		改善策の推進		評価(職員 保護者)	まとめ 改善策(次年度へ)		次年度計画 作成	今年度の計画は、 8割程度実施できた。 保護者には概ね良好な 評価だった。	中期的目標達成のための取組の具体化 と実確実な実施の促し。保護者には、目 標の説明を行い学校全体で充実した取り 組みができるよう進めたい。		
	・学部運営計画の作成とその推進計画 (学部評価の計画作成と推進)	評価実施(7,11月) 集約と改善(8,3月)	学部主事 ・副主事	学部運営 計画の周知	学部運営 実践強化 月間		進捗状況 確認、評価、 修正	修正案学部 共通理解		学部運営 実践強化 月間	進捗状況 確認、評価、 修正	修正案学部 共通理解	学部運営 実践強化 月間	状況確認、 評価、次年度 課題整理	次年度年間計画 作成	概ね計画どおり 実施できた。	・学部ごとのより具体的な課題の集約と 改善が必要。	
	○教育課程の充実																	
	教育課程改善作業の推進とその評価	評価実施(7,12,3月)	教育課程係 教務	基本方針の明確化、教育課程の組織化・日程の周知、事前研究・実態把握			教育目標・教育課題、 教育課程編成		年間指導計画の作成						次年度の 教育課程 完成	概ね計画どおり 実施できた。	・次年度は一本化を図り、授業実践 をとおして、教育課程改善作業 及び実施状況点検を行っていく。	
	教育課程の実施状況点検	7月、12月、2月 点検実施	教育課程係 教務	教育課程について 確認(全職員)			教育課程の編成 作業進捗のヒア リング					教育課程の編成 作業進捗のヒア リング		教育課程の編成 作業進捗のヒア リング		定期的に点検を 実施できた。		
	○個別の指導計画の充実																	
	個別的教育支援計画のアセスメントの工夫 と合理的配慮事項等の確認	各研修会の アンケート集約	テーマ研究 校内支援					アセスメント研修、 ファシリテーション 研修					合理的配慮 研修				肥後T研修アンケート、 片岡T研修実施	・アセスメント実践の 充実と指導根拠の明 確化。 ・合理的配慮の観点 から、実践内容の説明 を実施
	個別の指導計画に基づく保護者との連携した指導	保護者アンケート集約	教務・テーマ研究 各担任・学部	PTA総会での説明 家庭訪問	進路・教育 相談(全)		進路・教育 相談(高)		進路・教育 相談(小・中)						進路・教育 相談(全)		保護者へアンケート 実施	・アンケート結果を 全職員に周知。 ・今後の進路・教育 相談などでの意見 をもとに改善を図る。
	○専門的力量的向上																	
	「教育的ニーズ」に基づいた授業	各学部2回以上	テーマ研究 係	テーマ研究 計画の提案	授業実践研修会 実施計画提案	授業実践研修会、 まとめ		授業実践研修会 実施計画提案	授業実践 研修会	まとめ			テーマ研究 まとめ		次年度の テーマ研究 の概要		実践研修会 2回実施	実践研修会等での 成果と課題を踏ま えた次年度の授業 実践の取組の充実
	ICTの考え方を踏まえ、ICTやAT(アシスティブ・テクノロジー)を活用したコミュニケーション指導の実践と指導方法の共有化に努める	実践授業と共有化	自立活動 情報視聴覚	計画の確認と小規模 グループによる打合せ		実 践 授 業		実践の整理	実 践 授 業			実践のまとめと共有化		まとめと改善策(次年度へ)	次年度計画 作成	授業実践のビデオ 研修(ICTの活用、 AT教材の自作含む)	・自立と社会参加を めざした自立活動 の指導の充実(ICT とATをより活用、 学習環境要因の改 善等)・テーマ研修 係、情報視聴覚係 と連携)	
	PT(理学療法士)、ST(言語療法士)、DH(歯科衛生士)等の外部専門家との連携指導を通した自立活動の指導の改善・充実を図る	計画的な連携指導	自立活動	外部専門家への 連携指導依頼		ST 連携指導	PT 連携指導	連携指導の 整理	DH 連携指導		ST 連携指導	連携指導の 整理	ST 連携指導	まとめと改善策(次年度へ)	次年度計画 作成	PT1回(台風のため 1回中止)、ST2回、 DH1回の連携指導 実施	・計画的な連携指導 を通しての自立活動 の指導の充実。 ・DHとの連携指導 は保健部と連携して 計画実施。	
	自立活動だよりを定期的に発行することで、自立活動の指導に関する情報の共有化を図るとともに、本校ホームページにも掲載することで学校の教育活動の情報発信と理解・啓発に努める (情報視聴覚係と連携)	自立活動だよりの発行 ホームページへの 掲載	自立活動	自立活動だよりと HP掲載の計画確認	自活だよりの発行	自活だよりの発行	自活だよりの発行		自活だよりの発行	自活だよりの発行	自活だよりの発行	自活だよりの発行		自活だよりの発行 及びまとめと改善 策(次年度へ)	次年度計画 作成	自活だより7号まで 発行予定、ホーム ページへの掲載が できた	・本校自立活動の概 要、自立活動の教材 教具のホームページ 作成と掲載	
	○健康な身体づくりへの取組																	
	望ましい運動習慣の育成	研修・定期的な学校保健委員会 だよりの発行	体育指導		運動会における 指導		運動に関する研修 水泳学習における指導 学校保健委員会だよりの 発行			スポーツ大会への 参加推進				学校保健委員会 だよりの発行	評価	計画通りに実施できた。 また親子体操講座を 実施できた	体力向上を目指した 体育等の授業の充 実。 外部講師による指導	
	望ましい保健衛生習慣の育成	定期的な健康 チェックの実施	保健指導		身だしなみチェック	体操の推進	学校保健委員会 保護者アンケート 実施	夏季休業中の健康 チェックカードの実 施	夏季休業中の健康 チェックカードの集 約	性教育授業実践		冬季休業中の健康 チェックカードの実 施	冬季休業中の健康 チェックカードの集 約	学校保健委員会 保護者アンケート 実施	評価	校医による講話を 初実施。健康チェック 表の課題が残った	健康チェック(身だ しなみ)、体重管理 等の指導を計画的 に行う必要がある。	
	○キャリア教育・進路指導の充実																	
キャリア教育年間計画を作成する。	作成、修正し 教育課程へ	進路指導 各指導形態担				各指導形態担当者 へ作成依頼	作成	進路係へ提出 進行計画修正	とりまとめ 計画修正案の 提案	計画一覧作成 全体計画項目等 見直し作業		各形態担当で 確認	教育課程へ 次年度の進め 方提案		年度途中で作成 計画の修正を行 った。	現在検討中の全体 計画項目の修正 確認後、係内での 指導形態洗い直し 作業を行う。		
進路指導に関する教職員・保護者研修会を実施する。	年2回以上	進路指導	小中高 PTA	職員研修		職員研修 高・情報交換会	就労支援 セミナー	進路支援 セミナー	小中高PTA	高・情報交 換会	小中高PTA 職員研修			小中高 PTA	計画通り実施 できた。	研修内容や提供情 報を活用するための 常日頃の生徒保護 者との密なやりとり が大切。		
キャリア教育及び進路指導ハンドブックを作成し、基礎情報をもとにした指導を行う。	ハンドブックの作成 活用	進路指導	職員用作成 配付 家庭訪問	ミーティング 教育相談		保作成配付 高学年部会 ミーティング	教育相談	教育相談			高学年部会 ミーティング	ミーティング	修正事項 チェック 教育相談	ミーティング	基礎情報提供に努 め、主事等会や進 路委員会等の情報 共有の場も活用し た。	教職員の基礎情報 の咀嚼が必要 校内の相談体制の 充実(適切な進路 指導及び情報提供 のための)		

平成26年度 指宿養護学校 学校運営年間計画

進行計画 2

重点取組目標

平成26年度の具体的目標	評価基準	担当	年 間 進 行 計 画												評価の結果	次年度への課題
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
○教育環境の整備																
統一されたデザインによる校内表示・案内の作成	校内表示を一つ	広報掲示					校内表示の計画・作成・掲示(トイレ)	校内表示の掲示	→		学期の反省と改善	校内表示の掲示	→	校内表示の掲示	トイレに統一した校内表示をした。	・必要な統一された校内表示の検討をし、設置していく。(現在、職員アンケートを取り、必要箇所やアイデアを募っている)
校内掲示・展示及び教室設営の工夫	月1回掲示板の整理	広報掲示	掲示・展示の計画	掲示物の掲示・整理	→		学期の反省と改善	掲示物の掲示・整理	→		学期の反省と改善	掲示物の掲示・整理	今年度の評価と課題	毎月整理を実施した。	・いぶよう写真館(毎月の行事写真を掲示)の改善及び新たな掲示物(季節ごとの装飾等)の検討を行う。 ・掲示板の割り振りの検討	
校舎内外の清掃を計画的に進めるとともに緑と花に囲まれた落ち着いた学校環境づくりを推進する。	毎月の職員作業の計画実施	緑化・清掃・用務・各担当	花壇の整備 掃除用具の点検・整備	花壇の整備		モップの洗濯の呼びかけ		花壇の整備			モップの洗濯の呼びかけ			モップの洗濯の呼びかけ	花壇の管理や清掃など自主的に取り組む姿が見られてきた。	職員作業で行う除草など時期に合わせて、回数を増減させて学校環境を維持する。
○学校事故の防止																
各種訓練の充実と危険箇所の確認・改善と危険防止・予知・回避能力の育成	・計画実施 ・不審者侵入対応研修と防犯教室の充実	安全指導 防火防災	・ネームカード作成・配付 ・危機管理マニュアル周知 ・安全点検 ・交通安全教室の検討 ・消防設備等の点検	・安全教室・搜索訓練・ヒヤリハットの集約 避難訓練		ヒヤリハット事例集約	・不審者侵入時対応訓練・研修	・防犯教室			ヒヤリハット事例集約			・ネームカードの回収 ・ヒヤリハット事例まとめ	・当初計画と実施時期が変更になったが、充実した各種訓練を実施することができた。 ・避難訓練を実施し、緊急時対応について周知することができた。	・各種訓練の内容や時期等を含めて関係機関との連携調整を十分に図る。 ・ヒヤリハットの事例集約の呼びかけをする回数を増やす。 ・備蓄品の安価購入ルートを確保する。 ・緊急時対応カードの案を作成する。
安全・安心、円滑な医療的ケアの実施に努める。	実施報告(7・12・3月)	医ケア	・新規、継続手続き ・校内委員会 ・緊急時対応シミュレーション ・看護師との連携		・新入生等共通理解の会(学部・全体)	・校内委員会 ・全体研修(夏季休業中) ・関係書類の整備	→	・緊急時対応シミュレーション			・校内委員会 ・緊急時対応シミュレーション	・継続手続き準備	・校内委員会 ・主治医への報告書作成	→	計画通りに業務を進めることができた。緊急時対応シミュレーションにおいては学部ごとに研修を行い全職員での共通理解ができた。	・これまで通り、年度初めのオリエンテーションや共通理解の会等を利用して医ケアの児童生徒の状態を全職員で共通理解する。 ・緊急時対応シミュレーションでは、転入職員や本年度参加できなかった職員は必ず参加するように計画を立てる。
危険箇所の確認と補修	毎月1回	歳出用務 安全指導	校内巡視 安全点検 対応と措置				学期のまとめと報告作成	校内巡視 安全点検 対応と措置	→		学期のまとめと報告作成	校内巡視 安全点検 対応と措置	→	学期のまとめと報告作成	・毎月1回、安全点検を実施し、危険箇所を確認し補修等を行うことができた。	・今後も年度初めに安全点検について全職員で共通理解を図る。
安全・安心な通学と校内介助	通学事故0件	通学指導 バス介助	通学状況の確認と理解	避難訓練	チャイルドシート・車いす・シートベルトの調整・バス装備品の確認及び装備品の消毒と感染症予防								バス停の確認と今年度の総括	・事故0件を達成。 ・安全な乗降が可能なバス停を検討できた。	・緊急時対応マニュアルを改良し、全職員で共通理解を図る。	
	校内介助事故0件	介助	介助申請の理解	介助内容・方法と実態等個別情報の確認と介助業務								成果と課題及び反省作成	介助申請に基づき安全に実施できた。	介助申請に基づき実施する。出張等事前に介助が必要と分かっているものは早めの申請手続きをするよう共通理解を図		
○交流教育及び共同学習の充実																
居住地校交流の推進	小中学部生全員の実施	支援部 小・中学部	実施計画立案及び保護者希望調査実施	相手校との打合せ	第1回居住地校交流実施月間	反省アンケート実施まとめ		相手校との打合せ	第2回居住地校交流実施月間	反省アンケート実施まとめ			年間のまとめ・個々の記録記入	個別の教育支援計画への記入	・本人保護者の希望をもとにして65%の実施率であった。	・保護者へ担任を通して意義の説明を改めて行う。回数や時期の見直しが必要な児童生徒や学校に関しては、よりよい交流活動ができるよう配慮する。
学校間交流の推進	昨年度比+1校以上	支援部 各学部	交流学习の年間計画の共通理解	相手校との情報交換	徳光小との交流学习	交流反省まとめ	相手校との情報交換(計画)	柳田小との交流学习(本校体験)予定	相手校との情報交換	魚見小との交流学习	交流反省まとめ		交流学习の評価及び次年度計画		・昨年度並みだったが、来年度の相手校数変更に向けて取り組めた。	・徳光小、魚見小との交流学习は、27年度以降は、他校との実施も含めて市教委で試案を検討。
○特別支援教育の啓発と広報活動の充実																
管理職研修会への参加	指宿・南九州市各1回以上	教頭 支援部	各市教育局委員会と確認 講話内容確認	教頭会・校長会等管理職研修会への参加								各市教育局委員会への依頼	講話内容・資料の分析	講話内容・資料の作成	指宿市と南九州市で実施できた	・毎年管理職に向けた啓発の機会を設定したい。また夏期休業等を利用して支援部で地域の啓発活動を実施したい。
校外作品展の充実と工夫	学校紹介パンフレットの作成・活用	広報・掲示	校外作品展の企画 共通理解	学校紹介、パンフレットの作成	学校紹介、パンフレットの作成・活用 校外作品展	校外作品展	作品展の反省・計画	パンフレット等の改善	パンフレット等の改善	校外作品展		作品展の計画	→	評価と反省まとめ	パンフレットを作成し、校外作品展等に活用	・新年度のパンフレット作成 ・校外作品展用の学校紹介パネルの見直し
学習活動の報告や学校・PTAだより等の掲載も含めた、ブログ・ホームページの充実と更新	ブログ:2週1以上更新	情報	年間をとおりた、学校行事、各学部の学習の様子、食に関する内容の記事アップ												年間30件のブログアップ(2/13現在)	・ブログのアップ数上げるために各行事担当者との連携を図り、協力を得る方策を検討
	ホームページ:学期1回更新	情報	新年度の更新				一学期分の更新					二学期分の更新			学期1回更新	
かごしまの教育県民週間の工夫と参観者の増加	前年比+20人以上	管理職 教務			県民週間に向けての検討	→	県民週間計画提案	県民週間案内・広報	→	県民週間実施	参加者アンケート集約	県民週間反省と改善			前年比+20人	・ふれあいデー(授業体験)の参加対象者の拡大

平成 26 年度 指 宿 養 護 学 校 学 校 運 営 年 間 計 画

進行計画 3

平成26年度の具体的目標	評価基準	担当	年 間 進 行 計 画												評価の結果	次年度への課題	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
○ 特別支援教育のセンター的機能の充実																	
特別支援教育に関する地域支援の充実(相談・研修会等の企画・依頼・参加・協力等・・・巡回相談、PTA研修会、校内研修、特別支援教育支援員、コーディネーター)	幼稚園・保育園の巡回，教育相談等5件(昨年3件)	教頭 校外支援	各校への啓発	巡回相談の実施 巡回相談の担当割り当て決定	PTA講演会の啓発		特別支援教育支援員研修会（協力）							センター的機能発揮に関する年間反省と評価 次年度の課題把握	巡回相談のまとめ	計画とおり実施することができた。幼稚園・保育園の巡回・教育相談等は2月現在で6件で，評価基準を達成することができた。	・年度当初に巡回相談・教育相談についての啓発を図る。（パンフレットや巡回相談申請の流れ等の配付など）
いぶよう夏期セミナーの充実	参加者アンケートの満足度80％以上	教頭 校外支援	実施計画立案(会名検討)	案内状配付及び各学校等訪問依頼	2次案内送付及び学校訪問	実施細案7/31実践研修会実施	アンケート分析・報告書作成	アンケート結果共通理解	次年度計画案検討					次年度実施計画案作成	次年度計画共通理解	計画通り実施でき、アンケートの満足度も85％で評価基準を達成した。	・南薩養護学校，指宿市教委との日程調整 ・本年度の反省を基にした内容，日程等の検討
○ 信頼と安心できる学校づくり																	
計画的な服務研修の充実	毎月1回 + 必要時	教頭	年間計画指導 チェック表			休業前指導	全体服務研修					休業前指導				月目標を設定し、毎月最低1回は指導を継続実施できた。	服務指導が，確実に実践できるよう，指導内容や方法の充実を図り，職員全員が教職公務員としての自覚をもって行動できるようしたい。
健康の保持増進と話しやすい職場づくりに向けた職員体育の効果的活用と計画的な実施	毎月1回	教頭・保健 職員週番	健康保持計画作成 職員体育	出退システム確認												職員体育は工夫・実践したが参加者に偏りがあった。	健康保持だけでなく，職員間の交流の場として意識付けも図っていきたい。
保護者・外部アンケートの実施と活用	各種行事と定期的なアンケート実施	教頭・教務・主・副主事	行事アンケート内容検討	運動会	保護者等評価	保護者評価等の改善策検討	保護者評価等の改善策検討	宿泊学習	修学旅行	学習発表会	保護者等評価	保護者評価等の改善策検討				保護者や外部からは概ね良好な評価だった。	アンケート内容見直しを常に意識し，保護者等がアンケートを記入しやすく意見を出しやすい様子を工夫したい。
○ 予算の趣旨を生かした計画的で適正な執行																	
書類・伝票等の正確性の向上と適正な事務処理	事前の伝票チェックと訂正の実施	事務	伝票チェック	相互自主検査の実施と訂正	伝票チェック	相互自主検査の実施と訂正		伝票チェック	相互自主検査の実施と訂正		伝票チェック	相互自主検査の実施と訂正		今年度の評価と次年度計画の作成	計画どおり実施できた。	書類の見直しを常に行い誤りのない伝票にする。	
計画的かつ的確な予算の執行	計画実施100％	事務	年間計画作成と周知	購入希望調査	備品確認依頼			購入備品の報告	購入希望調査			購入備品の報告	購入希望調査	備品・消耗品引継依頼 節約状況の報告	職員の希望に添った物品を購入できた。	職員がより授業実践の充実が図られるように物品の充実を図る。	
	月1回以上：節水・節電と消耗品等の節約依頼	事務	取り組みへの協力確認と依頼	呼びかけ			節約状況の報告	呼びかけ			節約状況の報告	呼びかけ			光熱水費の節約が図られた。	印刷時のインクや用紙の節約を呼びかける。	
就学奨励費の迅速な支払い	計画実施100％	事務	奨励費の保護者説明	書類の配布	書類のチェック	県への報告	保護者のへの決定報告	支払い	個々の支払い残額のお知らせ	支払い	支払い	個々の支払い残額のお知らせ	新入生への説明	年間書類のチェック	1回目の支払いが予定より遅くなった。	支弁段階の決定通知を受けたら，速やかに支払いができるよう準備を整えるようにする。	
適正な認定業務・給与支払い・庶務の実施	過年度返納・過年度支出事案0件	事務	認定書類の配布(状況のチェック)	認定・給与基本台帳の確認	認定状況のチェック 給料額の確認				基本台帳の確認	年末調整書類の配布					計画どおり実施できた。	過年度返納・支出がないよう常に認定状況のチェックに努める。	

平成26年度 前期保護者学校評価まとめ

- 本校の教育活動等について評価してください。項目「17」からは保護者の方をお願いしていることについてお答えください。（評価欄の該当する数字を○印で囲んでください。）
 4 = 「そう思う」 3 = 「やや思う」 2 = 「あまりそう思わない」 1 = 「そう思わない」
 = 「評価ができない、わからない」

学部（ 小16 / 17 , 中10 / 12 , 高14 / 14 計40 / 43 ）

番号	評 価 内 容	評 価 欄				
		4	3	2	1	
1	教育目標や方針，中期的目標などについて，わかりやすく説明している。	28	10	1		1
2	ホームページやブログ，学級通信，学部・学校便り等で学校の様子がわかりやすく情報提供されている。	30	9			1
3	「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を，学校と家庭で話し合って作成し，連携した指導となっている。	30	9			1
4	豊かな感性の子どもが育つよう，聞く・話す・読む・書く力や表現・思考力を重視した授業がなされている。	27	11	1		1
5	児童生徒一人ひとりの課題に応じて，教材・教具等を活用したり，工夫したりした指導がなされている。	27	10	2		1
6	子どもの特性や実態に応じた具体的で丁寧な指導がなされている。	29	10			1
7	事故のない学校づくりに努め，校舎内外の整理整頓や施設設備の安全など学習環境の整備をしている。	33	5			2
8	体力づくりや運動の習慣づくり，保健衛生習慣（手洗い・うがい）の向上をめざした取り組みをしている。	32	7			1
9	食育を通じた指導を行い，健康状態の改善や実態・課題に応じた健康の保持増進に取り組んでいる。	34	5			1
10	居住地校交流やボランティア活動等，さまざまな体験活動・交流活動を実施し，地域や他の学校との連携を図っている。	26	10	1	1	1
11	進路に関する教育（キャリア教育）に取り組み，卒業後の生活に備えた情報の提供や進路相談等をしている。	25	12			3
12	教育・福祉・医療・労働・行政等の各支援・関係機関との連携が図られている。（地域の特別支援教育のセンター化）	21	13	1		5
13	教職員は，外部専門家との連携を図り，専門性の向上の取り組みを行って児童一人一人の指導に努めている。	27	11			2
14	教職員は，人権尊重の視点に立ち，子どもの性別や生活年齢に応じた言葉かけや呼びかけ・関わり方をしている。	30	9			1
15	教職員は，親身になって保護者の相談に対応し，勤務態度も良好で信頼している。	28	11			1
16	子どもは，学校の雰囲気になじみ，楽しんで学校に行き，満足して帰ってくる。	32	6			2
17	私は保護者として，我が子・孫の健やかな成長と地域での安心・安全を守っている。	27	11	1		1
18	私は保護者として，子どものできる状況をつくり，主体的な活動や参加の経験を保障している。	19	17	2		2
19	私は保護者として，教職員とともに成長しつつ，連携と協力を図っている。	22	14	2		2
20	私は保護者として，PTA活動への積極的な参加・活動を推進している。	13	16	8	2	1

< 意見要望 >

学校の教育方針や運営などは生徒のことを第一に考えてくれており申し分ありません。

平成26年度 後期保護者学校評価まとめ

項目「9」は小・中学部の方のみ 「10」は高等部の方のみお答えください。

項目「16」からは保護者の方をお願いしていることについてお答えください。

4 = 「そう思う」 3 = 「やや思う」 2 = 「あまりそう思わない」 1 = 「そう思わない」

= 「評価ができない、わからない」

学部（小17 / 18 , 中7 / 12 , 高3 / 14 計 小・中24, 全27 / 44）

番号	評 価 内 容	評価欄				
		4	3	2	1	
1	学校や学部の教育目標や方針，中期的目標などについて，わかりやすく説明している。	21	4	1		1
2	学校の様子は，ホームページやブログ，学級通信，学部・学校便り等でわかりやすく情報提供されている。	20	5	2		
3	「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」は，学校と家庭が話し合い連携して作成した内容となっている。	24	3			
4	聞く・話す・読む・書く力や表現・思考力を重視し，豊かな感性の子どもが育つような授業がなされている。	22	4			1
5	教材・教具等を活用したり，工夫したりして，児童生徒一人ひとりの課題に応じた具体的で丁寧な指導がなされている。	20	6			1
6	校舎内外の整理整頓や施設設備の安全など学習環境の整備をして，事故のない学校づくりに努めている。	23	4			
7	体力づくりや運動の習慣づくり，保健衛生習慣（手洗い・うがい）の向上をめざした取り組みをしている。	25	2			
8	食育を通じた指導を行い，健康状態の改善や実態・課題に応じた健康の保持増進に取り組んでいる。	26	1			
9	<小・中学部のみ> 居住地校交流や体験活動・交流活動を実施し，地域や小・中学校との連携を図っている。	19	1			
	<高等部のみ> 産業現場等における実習や指商デパート参加などの社会体験活動を通して地域との連携を図っている。	3				
10	進路に関する教育（キャリア教育）に取り組み，卒業後の生活に備えた情報の提供や進路相談等をしている。	12	7	1		7
11	教育・福祉・医療・労働・行政等の各支援・関係機関との連携が図られている。（地域の特別支援教育のセンター化）	15	10		1	1
12	教職員は，外部専門家との連携を図り，専門性の向上の取り組みを行って児童一人一人の指導に努めている。	18	8			1
13	教職員は，人権尊重の視点に立ち，子どもの性別や生活年齢に応じた言葉かけや呼びかけ・関わり方をしている。	23	4			
14	教職員は，親身になって保護者の相談に対応し，勤務態度も良好で信頼している。	24	3			
15	子どもは，学校の雰囲気になじみ，楽しんで学校に行き，満足して帰ってくる。	26	1			
16	私は保護者として，我が子・孫の健やかな成長と地域での安心・安全を守っている。	17	9	1		
17	私は保護者として，子どものできる状況をつくり，主体的な活動や参加の経験を保障している。	11	14	2		
18	私は保護者として，教職員とともに成長しつつ，連携と協力を図っている。	14	11	2		
19	私は保護者として，PTA活動への積極的な参加・活動を推進している。	10	14		3	

H 2 6 学校関係者評価委員 評価まとめ (5 / 5)

平成 2 7 年 3 月 1 1 日
県立指宿養護学校

【評価】

A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である

項目及び主な評価観点	評 価				改善事項等
	A	B	C	D	
学校の運営方針や基本的な考え方などについて ・ 教育目標や学校の特性を考慮した妥当なものか。 ・ 学校・学部の運営や校務の組織等は、教育目標達成に向けて妥当なものか。	4	1			
教育活動の推進・充実について ・ 教育課程や教育活動等は、児童生徒の障害や特性等に配慮した適切な内容か。 ・ 児童生徒への指導・支援や対応は、人権を尊重し、一人一人に心じた細かな配慮をしているか。	2	3			
教職員の研修や保護者対応等について ・ 教職員は、専門性や指導力、資質等の向上に努め、研修体制は適切か。 ・ 「学校だより」や「PTA新聞」「HP」等による学校の情報提供は適切か。	2	3			・ 社会情勢が厳しく、家庭環境も厳しい生徒が増えているので今後も丁寧な家庭支援をしてほしい。 ・ 専門家でない保護者に分かりやすく伝えるのは特に高いスキルが必要だと思います。
関係機関との協力及び支援態勢について ・ 児童生徒への支援のための福祉・医療機関等との連携は適切か。 ・ 進路に関する情報提供や関係機関との連携は適切か。 ・ 幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校等へセンター的機能を果たしているか。	4	1			・ 保護者の理解や障害受容が難しく、特別支援につながっていない生徒も多いので、地域の学校への積極的なサポートを継続してほしい。
施設・設備の整備・充実について ・ 児童生徒の障害や特性等に配慮した施設・設備の充実及び安全に努めているか。 ・ 知的好奇心を育み、安心・清潔への配慮が行き届いた学校の教育環境か。	2	3			・ 図書室の施設設備等、環境整備が気になる。
総 合 評 価	3	2			

< 意見、感想 >

山本委員：各学部、部門の取組 P D C A サイクルを実施するのは大変かと思います。

福祉分野も子供たちの幸せのために支援の向上を目指して取り組んでおります。今後も連携、協力、御理解お願い致します。わかばは 5 月に移転予定。ぜひ遊びにいらしてください。

西委員：運営方針、基本的な考え方等、具体的に細かく分かりやすく配慮されている。評価的には B 評価項目に多くチェックしたが、ほとんどが A に近いと考えている。学校としての情報発信は、色々な方法で引き続き更新していただきたい。地域のセンター的機能をますます充実させていただき、頼れる場として確立してほしい。校長先生はじめ職員の皆さまの仕事にはいつも頭が下がります。

福宮委員：体育大会、授業参観、給食試食、創立 4 0 周年記念式典等参加させていただきました。校内外も整然と整理され、生徒に配慮した統一したマーク等工夫されている。センター的機能も年々工夫され、近隣の学校への相談・支援業務もよく行われている。また、研修会も大変参考なる内容です。これからは、ICT 機器、特にタブレット等を活用した学習指導や訓練も研究されてはと思います。一年間ありがとうございました。

原田委員：限られた資源をいかにバランスよく必要な課題に向けるか先生方のご苦勞を察し致します。本業に専念できやすい環境づくりをお願いします。

東川委員：特になし